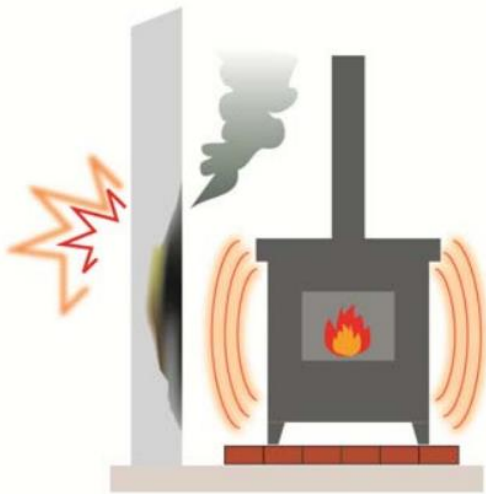


# 薪ストーブによる火災原因

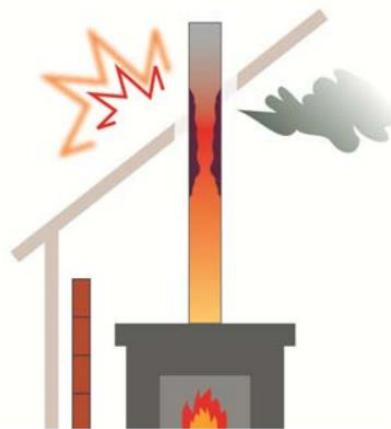
## ① 低温炭化

薪ストーブ周りの壁内部に隠れている木材などの可燃物は100℃程度の低温であっても長時間熱せられると炭化し、熱を蓄積して発火し、火災に発展することがあります。



## ② 煙道火災

煙道内にすすやタールが溜まると、ストーブを過熱したときに煙道内部で異常燃焼が起こることがあり、煙道周囲に可燃物があると発火することがあります。



## ③ 取り灰からの着火

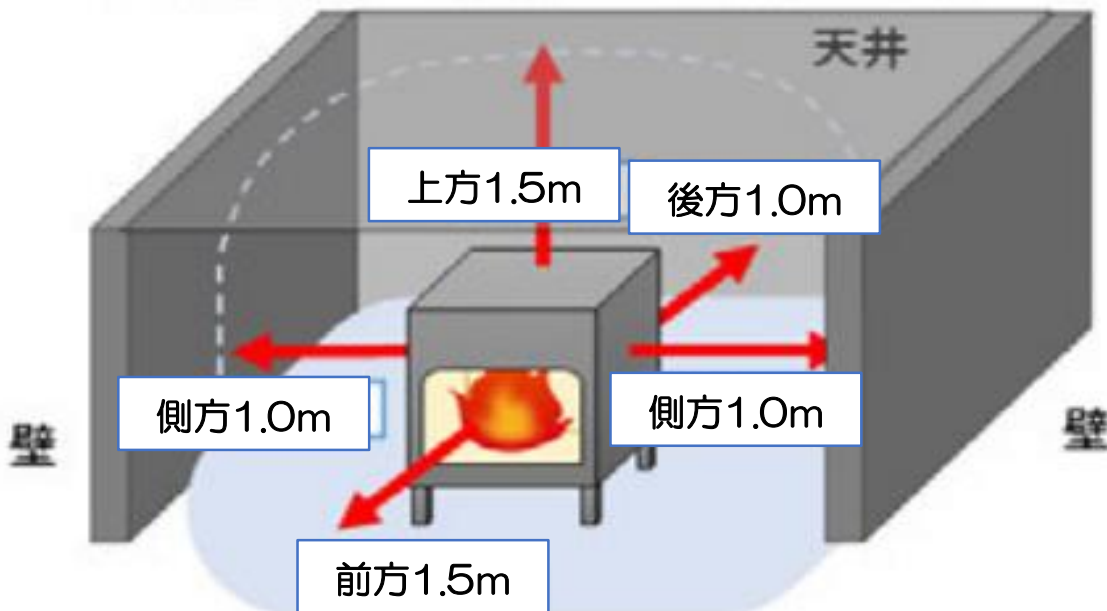
取り灰の中には、灰に隠れて火種が残っている可能性があり、それに気づかずにそのままゴミ箱や段ボールなどに入れて火災に拡大することがあります。



# 設置時の基準・注意事項

## 薪ストーブ本体から可燃物との離隔距離

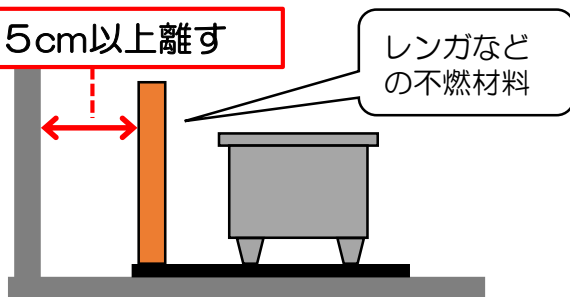
薪ストーブを設置する場合は、可燃物に対して前方は**1.5m以上**、上方は**1.5m以上**、側方と後方は**1.0m以上**の距離をとる必要があります。



※ストーブの周りをレンガなどで囲むことで、**離隔距離を縮める**ことができます。

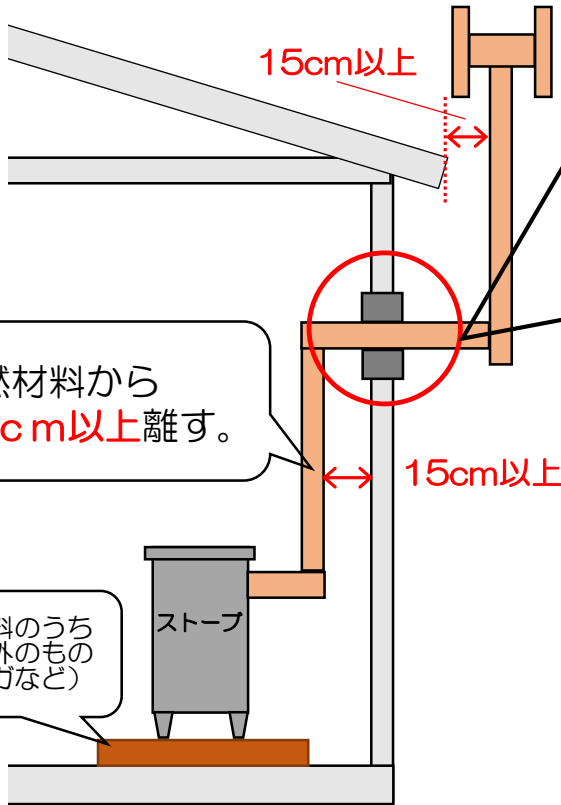
2.5cm以上離す

レンガなどの不燃材料

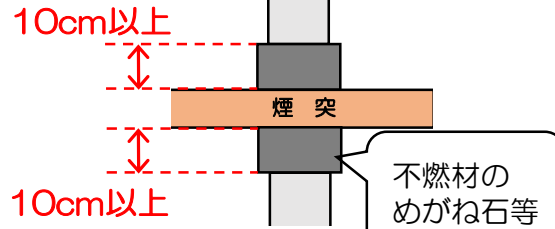


# 薪ストーブ・煙突の周囲

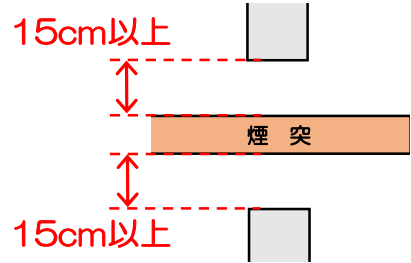
煙突は、建築物の部分である木材などの可燃材料から**15cm以上**離す必要があります。また、煙突が可燃性の壁などを貫通する部分は、**めがね石をはめ込む**、又は**遮熱材料で有効に被覆する**必要があります。



## 貫通する部分

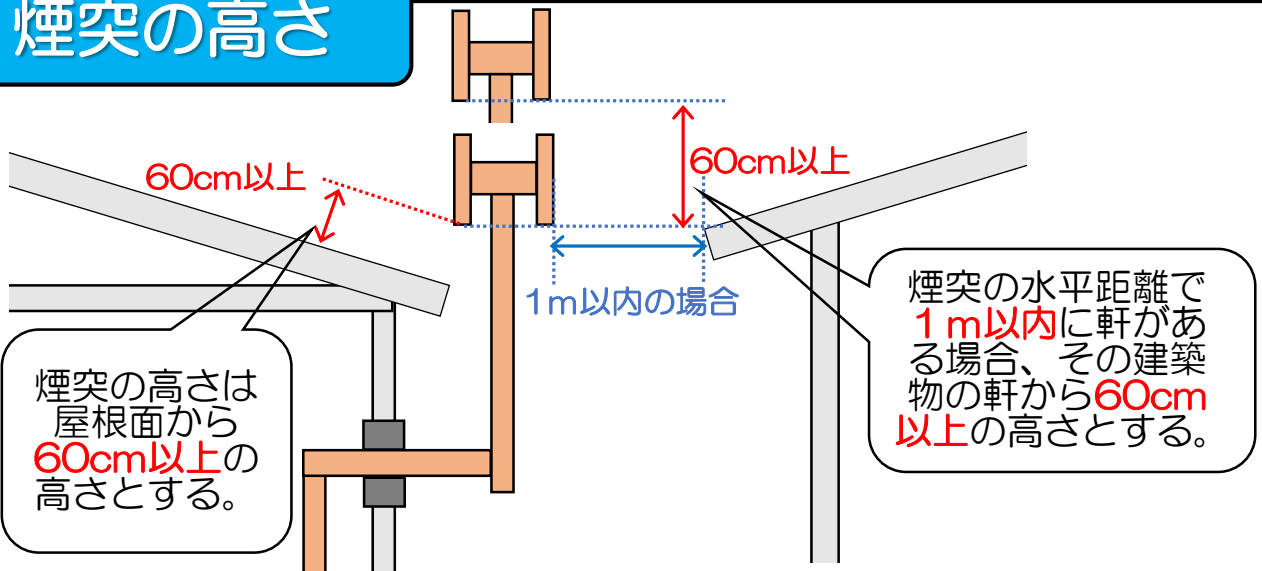


【10cm以上のめがね石】



【周囲15cm以上の空間】

## 煙突の高さ

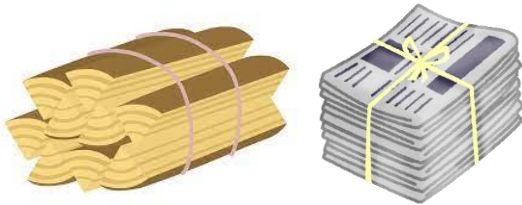


# 使用時の注意事項

## ○ 薪ストーブの周囲に燃えやすいものを置かない

薪や新聞紙などの可燃物は火が燃え移る可能性があるため近くに置かないようにしましょう。また、洗濯物を干すことは落下するなどして火災の原因になるので絶対にやめましょう。

近くに置かない



洗濯は干さない



## ○ 薪以外の可燃物(ガソリン・プラスチック等)は絶対に燃やさない

薪以外の燃料を使用すると異常燃焼を起こし、火災の原因になります。また、薪ストーブで可燃ごみを燃やすことも絶対にやめましょう。

ガソリン



ゴミ



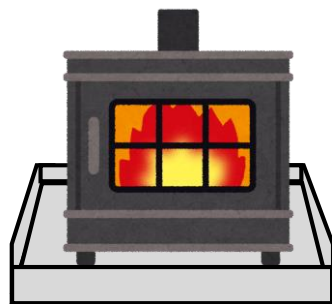
## ○ 煙突は年1回以上必ず点検し、煙道内のすすやタールを掃除する

煙道内にすすやタールが溜まると煙道火災の原因となります。使用時期の前後で定期的に点検・清掃を行い、良好な状態を維持しましょう。



## ○ 不燃材料製のたき殻受けを設置する

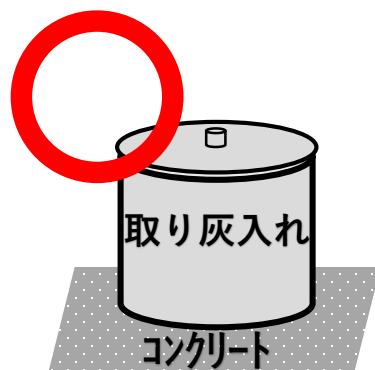
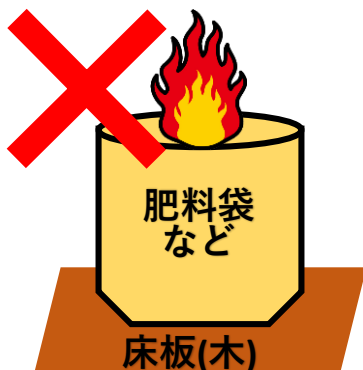
たき殻等の火種が落ちた場合の受け皿として、**不燃材料製（金属板、コンクリート等）**のたき殻受けを設置しましょう。



## ○ 取り灰は蓋のある不燃性の取り灰入れに入れる

取り灰の中には火種が残ったまま、直接ゴミ箱などに捨ててしまうと数時間経過した後、可燃物に着火し火災の原因となります。

取り灰は**完全に消火したことを確認**してから、**蓋のある不燃性の取り灰入れ**に入れて処理しましょう。



上記の記事のお問い合わせは、

消防本部予防課

TEL 0178-44-2133

FAX 0178-44-1196



### 【参考文献】

“木質バイオマスストーブ環境ガイドブック～薪・ペレットストーブの環境にやさしい使い方～”  
「環境省ホームページ」, 2012-08-01, [900399532.pdf \(env.go.jp\)](#) (参照2024-01-15)